

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600275		
法人名	有限会社 森		
事業所名	グループホームいこいの森		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里1811番地		
自己評価作成日	令和5年4月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年4月19日	外部評価確定日	令和5年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者様のご希望、ご家族様のご希望をできるだけ叶えられる様に支援しています。今まで生活していたご自宅等への訪問など、入居されてもご自宅やご家族様とのご関係を密に図るようにしています。
- ・必要時には1階の医療機関への相談等行っています。医療面でのサポート体制が整っていることで、安心して看取り介護をご希望されても対応が出来ます。また、他の医療機関への受診も職員が付き添い等行い、できる範囲でのサポートをしています。
- ・コロナ禍でもありましたが、少しでもご家族様と過ごす時間を確保できるように努めてきました。制限のある生活の中、ご入居者様はもちろん、ご家族様、職員一丸となってコロナ対策を行いつつ楽しみを持った生活を提供しています。
- ・毎月、壁面製作や施設内掲示には力を入れ、入居者様だけでなく近隣の方からも楽しんでもらっています。
- ・全職員が外部での研修会へ参加し、知識の向上、介護技術の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関は、地域の病院として住民に親しまれている。1階が医療機関で施設は2階に位置し、医療との連携で、緊急時の対応や看取り介護においても利用者や家族の安心感につながっている。また、今年3月にはコロナ禍で開催できなかった運営推進会議や毎年恒例となっていた「ひなまつり」など、感染対策を十分に行い、家族会を交え多数の参加で実現できている。代表者は、職員が働きやすい職場環境を整えたいと、子育て支援にも協力的で、人材を増やし時短の調整を行うなど、常に質の高いサービスを目指す支援が行われている事業所である。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ありのままの利用者を受け入れ、グループホーム入居後も地域や家族の一員として暮らし続けられるような支援を目指しているが、新型コロナウイルス感染防止のため実践困難な状況であった。年明け頃から徐々に実践、活動を始めている。 全職員がその理念を共有できるように、玄関やリビングなどに常に掲示し、カンファレンス時にも確認をしている。	開設時に作成された理念は今も思いは変わらず継続されている。住み慣れた地域との関わりを踏まえて、利用者のあるがままを受け入れ、また地域での暮らしを支援することを大切にしたい理念は、職員全員が共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の敬老会・お祭りなどに参加していたが現在は新型コロナウイルス感染防止のため、自粛している。防災訓練も利用者様と職員とで開催し、運営推進会議の開催もほとんどが文書によるものであったが、令和4年度最後の運営推進会議は地域の公民館を利用し、集合開催をすることができた。外出可能な利用者様は近所を散歩する時に挨拶をするなど、可能な限り地域とのつながり、交流を心掛けた。	事業所は地域活動や住民との関わりを積極的に行っていたが、ここ数年コロナ禍で地域の行事の中止も多く、また感染防止対策で事業所の行事も自粛し、思うように実現できていないが、地域のクリーンデイなど奉仕活動には、日程の調整を行い参加している。地域の方や入居者の家族からは、沢山の野菜の差し入れも多くあり、入居者は楽しみながら調理に活かしている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム入居者だけでなく、通所利用者やその家族等の相談に乗り、市町からの相談も受け付け助言や支援などを行っている。また、認知症サポーター研修を受けている職員が居るので要請があれば養成講座を行っている。認知症グループホーム協会の活動、コロナ支援にも協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年度は新型コロナウイルス感染防止のためほとんどが文書による開催であったが、3月にはメンバーの方々や家族様に来所いただき、家族会と併せて開催した。年間の活動内容や利用者様の状況報告、来年度の活動予定などを報告し、今後も地域の理解と支援をいただき、サービスの向上を目指している。活動報告や利用者様の状況においては写真などの掲示でわかりやすくした。	地域の理解と支援を得るための有意義な機会としてとらえ、定期的に行われていた会議も、コロナ禍で開催が自粛され、各委員から意見を聞き文書での開催報告となっていたが、今年3月より家族会とともに開催されている。情報交換も活発に行われ運営推進会議の意義が活かされた議事録となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	白石町役場(地域包括支援センター)には毎回運営推進会議資料を提出し報告し、電話による連絡等も多い。 事業所側が把握した地域の高齢者の情報を包括に連絡、相談したり、包括から事業所への相談も、包括だけではなく居宅介護支援事業所等と連携を図りながら支援を行うなど、協力関係を築いている。	運営推進会議時だけでなく、行政の関係課へ出かけたり、電話による連絡も多い。日本グループホーム協会にも加入し、佐賀県長寿社会課にも度々顔を出し、関係職員と顔なじみにもなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員が外部研修に参加しており、定例のケアカンファレンスの中で身体拘束及び虐待防止の勉強会を行っている。居室内で転倒、転落の危険性がある入居者については家族と相談しながら足元センサー等の環境整備や対応策を検討している。身体拘束廃止委員会を3か月に1度定時と必要時に開催している。	全ての職員が、身体拘束がもたらす弊害について、これまでに持っていた認識や、外部研修、ホームでの毎月行われる勉強会などで、十分に理解し、拘束のない支援につなげている。スピーチロックによる心の拘束も無いようにと認識して実践している。利用者の出入りは、職員が十分に見守り、防犯については、駐在所とも連絡を取っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の外部研修参加の他、定例のカンファレンスの中で虐待についての勉強会を行っている。職員の言葉遣い、対応、介助方法等にも注意し虐待防止に努めているが、時に職員の言葉遣いが丁寧でないことがあり、お互いに注意しあうようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や定例のカンファレンスの中で勉強会を行っている。現在のところ、活用されている入居者はいないが、今後は活用の機会も予測される。実際に成年後見人等の活動を行っている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は家族と面談し、重要事項の他、利用料、医療連携、看取り介護、入院時や退居時の対応等、内容を説明の上同意いただいている。改定がある場合には家族会等により説明を行い同意をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、運営推進会議や家族会、日頃の面会時の会話の中から意見や要望を汲み取り、代表をはじめ職員で検討の上、改善が必要な場合には速やかに対応している。改善後は電話や後日面会時等に家族に報告している。	自主的に運営されている家族会の存在は大きく家族から何でも言ってもらえる信頼関係が出来ている。今年度はコロナ禍で万全な感染予防対策を行いながらの面会となっているが、要望や意見があれば即座に対応している。意見箱も設置され、相談窓口についてもきちんと説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は日々の業務に従事し、毎月定例のカンファレンスにも参加している。その中で職員の意見や提案を聞いたり、業務内容、行事等の反省を行いながら運営に反映している。	代表者は定例の会議だけでなく、日々の業務にも携わっており、職員の気持ちや考えを直に感じて運営に反映している。若い職員も多く子育て支援にも理解があり、勤務時間の調整を行い働きやすい職場環境を作っている。また転倒予防だけでなく安静時のバイタルなど測定できる体感センサーの購入など代表者は職員の意見を聞き検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の年齢や実績、家庭の状況等に配慮し、働きやすい環境や勤務態勢作りを行っている。介護福祉士、認知症介護実践者研修等の資格取得の支援にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量にあった外部研修に参加させている。定例カンファレンスの中で報告し、全職員が閲覧できるようにしている。また、定例のカンファレンスの中で、テーマを決めて勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム連携協議会が休止のため、鹿島・嬉野・太良地区の連携協議会に入り、年に数回勉強会や情報交換を行っている。非常災害時の応援協力体制についても関係構築している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談では、家族様に本人様の状態や入居後の生活への意向を確認している。入居前には管理者や計画作成担当者が本人様の状態を確認し、環境の変化などによる影響をできるだけ少なくするように、受け入れの準備を行い、全職員に周知を図っている。入居後約1ヶ月は本人様の様子をみながら徐々に意向の確認や状態把握に努めている。また、入居後の些細な変化や話されたことなど記録するようにし、職員間での共有も図れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時には、重度化した場合や入院された場合の対応についても説明し、家族様の不安の解消に努め、生活への意向や要望を確認しながら入居後の生活について話し合っている。コロナ禍で面会制限もあり、毎月担当職員から電話での近況報告や、月初めのお便りで報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の本人様の生活、体調面・精神面での不安や問題を把握し、必要時は入居前の受診に職員が付き添い、主治医に入居後の留意点等を確認し計画作成にも反映することで、本人様、家族様の安心につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物たたみ、調理、片付けなど、本人様ができる作業と一緒にしながら、介護されるだけでなく、役割や楽しみ、生きがいを持って生活していただけるように心がけている。月に数回、利用者様と一緒におやつ作りや食事作りを行い、一人一人ができる作業を行っていただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前や家族会、面会時等に、入居後も家族様と職員が協力して本人様を支えていくことや家族の絆の大切さを説明し、理解していただいている。本来は一緒に行事に参加していただくなど本人様と家族様の絆が途切れないように支援を行うが、面会制限等もあり思うように活動できないため、毎月電話での近況報告やお便り、写真等で日々の様子を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため思うような外出、外泊等が実施できなかったが、できる範囲で本人様や家族様の自宅、希望の場所にお連れしたり、職員と入居者様のみでドライブや外出、花見などを行った。特に誕生日にはご本人の希望やご家族様の希望をお聞きしてできる限り要望に添える形となるよう計画実行した。	これまで家族の協力を得ての外出や盆正月の帰宅、また法事への出席等々、当たり前に出ていた事がこのコロナ禍では十分に出来る事が出来ていないが、再開できるまで、職員と利用者のみでドライブや自宅まで外出することもある。またいつでも可能なLINEや電話の取り次ぎ等で関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を把握し、一人ひとりの個性や長所を引き出しながら、誰もが楽しく過ごせるように、座る場所、会話、活動内容等を工夫している。職員が間に入りながら心身の状態、その時の気分、感情の変化にも注意をしながら見守りや対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡により契約が終了した家族様にはこれまでの対応について丁寧に説明し理解を得ている。また、契約終了された方でも気軽にホームへ来所しやすい環境ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前や定期的なアセスメントの他、日常生活の中での会話や本人様の言葉、行動などから利用者の意向、希望を把握するように努めている。意思確認が困難な方の場合、家族様に確認したり、本人様の表情や行動などから推察し、定例のカンファレンス等で検討している。昔の写真をお預かりし、自分史の作成もした。	日々の暮らしの中で、本人との意思疎通ができる関係になるように努力している。本人との会話の中で生活歴を交えながら、思い出すきっかけを作ったり、行動の変化、つぶやきなどで、利用者の真意や心情を推測している。利用者の担当制は、信頼関係をより深くしており、その情報は共有され支援に結び付けられている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネジャーからの情報の他、本人様や家族様から聞き取りを行っている。ホームへ入居される方の多くがデイ利用者のため、デイ職員からも情報収集を行っている。入居後も、本人様との普段の会話や、家族・親戚等の面会時の話などから情報の把握に努めている。また、家族の協力で昔の写真などで「自分史」というボードを作っていて生活歴・生活環境などを汲み取り職員みんなで情報共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り、個人記録等により、一人一人の一日の過ごし方、心身の状態などの把握に努めている。また、定例のカンファレンス、申し送り等により全職員が情報の共有、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定例のカンファレンスの中で、全職員が利用者一人一人の状態やケア方法について検討し、毎月のモニタリングと定期的な評価を行っている。 家族様には日頃から面会時等(遠方の家族様には電話等)で状態報告や意向の把握に努め、状態の変化がある場合には定期以外でも現状に即した介護計画に変更するようにしている。必要時には主治医、歯科医等からの意見を聞き、介護計画に反映している。	利用者や家族の暮らしに対する意向や課題が明確に捉えられ、計画に反映されている。 日々の記録簿は時間帯に合わせ色を変え、誰でも一目でわかるように記されている。家族も担当者会議に出席し、関係者全員で作成した計画である。モニタリングも適切にできており、状況に応じた計画の見直しもきちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に日々の生活の様子や心身の状態、ケアの実践、結果、気づき等を個人記録に記入し、情報を共有するようにしている。個人記録では知りたい項目をすぐ見つけられるように件名(排泄、歩行など)を書くよう工夫している。それらを踏まえ、定期あるいは状態変化時の介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の心身の状況により、家族様では対応できないような外出、受診等には人員体制を増やすなどして柔軟に対応している。また、特別な日にはご本人やご家族様の意向にできる限り添えるように体調や状態を見ながら柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議は、今年度はほとんど文書による開催であったが、地域包括支援センターやメンバーの方には活動状況等を報告し、情報交換や意見交換等を行うようにした。令和4年度最後の運営推進会議は集合にて開催できた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面談では、今までのかかりつけ医を受診できること、ホーム1階の協力医をいつでも受診できることを説明し、受診や通院は本人様や家族様の状況、希望に応じて職員が代行している。必要時には、専門の医療機関や訪問歯科も受診を支援、介助している。	ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医は同一建物の中に病院があり、いつでも受診や、相談ができ、緊急時にも即座に対応ができるので、家族の医療に対しての安心感につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員(医療連携担当)を配置し、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な受診、看護を受けられるようにしている。看護職員不在の時も、電話等で利用者の状態や変化を連絡し、常時連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはケアマネジャー等の職員が付き添い、医療機関に適切な情報提供を行っている。定期的にソーシャルワーカー等の関係者と電話や面談により状態確認を行い、早期退院に向けての支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応や看取り介護についての説明を行い、文書で意向の確認を行っている。終末期に入り、主治医より状態説明を受け、家族様が希望された場合は、主治医、看護職員、介護職員が連携を図りながら最期の時まで支援を行っている。家族様の不安や気持ちの変化にも十分留意し、随時意思を確認しながら取り組んでいる。コロナ禍ではあったが、面会ができるように支援も行った。	入居時に重度化や終末期における指針を説明し、同意を得ている。これまでも看取り介護の事例はあり、家族の泊まりも可能で、最期まで家族との関わりができる体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政機関、消防署等が行う応急手当、心肺蘇生等の講習会・研修会には毎年数名の職員が参加し、他の職員に伝達研修を行っている。緊急時や救急搬送時の対応等についてもケアカンファレンス・勉強会で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練(1回は夜間想定)を行っている。消防署、地区消防団、地域住民等の協力もあり、参加可能な利用者と共に、通報、消火、避難訓練等を行っている。近隣住民とは避難場所の確保、炊き出し等の協力体制もできている。今年度は、日本グループホーム協会佐賀県支部の「BCP(事業継続計画)」研修会にも参加した。	消防計画に基づき、昼夜の火災想定避難訓練を年2回行っている。地震、水害、台風などの自然災害時の対応マニュアルも備え、事業所の3階が垂直避難場所となっている。備蓄も食料、衛生品ともに整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例のカンファレンスの中で、プライバシーや接遇マナー等の勉強会を行い、利用者様への言葉遣いや対応などに気を付けている。不適切な言動がある時には職員同士で互いに注意しあうようにしている。また、個人情報の取り扱いにも注意している。	利用者一人ひとりの尊厳や人格、これまでの人生で得たものを尊重し支援している。研修会や勉強会などで学んだ接遇についての知識を支援の場に活かし、さりげない言葉かけや対応に配慮し、その方に合った言葉かけが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様一人ひとりの想いを尊重し、自分で意思表示や伝達ができる方は本人様の話を十分に聴き、あまり表出されない方や表出が困難な方は、自己決定出来るように選択肢を増やした声掛けを工夫するなどして、その表情や言動から推察し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者一人一人の体調、精神状態、本人様のペースに合わせて食事や休息が取れるようにしている。食事に関しては、現在、朝食を他の入居者よりやや遅めに取られる方もいたり、食事の形態を食べやすい形態に一人一人合わせるなどの支援を行っている。 外出希望の方には散歩やドライブ等の対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は入浴時に自分で衣類を選んで着替えをされている。自己決定が困難な方は職員が季節やその日の気温等を考えて準備している。行事や外出時などは場面に合わせた衣類を選ぶ等の支援を行っている。入浴後は化粧水をつけたり眉を書かれたりと個人の自由を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には調理担当の職員が栄養面を考えてメニューを決めているが、誕生日や行事等では利用者様に決めてもらうこともある。自分で答えることができない方においては、家族様への聞き取りも行っている。 できる方には野菜の下ごしらえや味付け、後片付け等を手伝っていただき、職員も一緒に会話や介助をしながら行っている。 毎月の行事食や誕生会の食事は利用者様や本人様の希望のメニュー、食材等を取り入れるようにしている。	感染防止対策として、アクリル板を設置しての食卓である。食事は、その日の調理担当の職員が調理している。形態の変更が必要な方には、食べやすいように工夫し、食事が楽しみとなるよう支援している。野菜は近所や家族からのいただき物が多く、毎日の食材に活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考え、食事形態も一人一人の咀嚼、嚥下状態などを考慮して提供している。水分補給も食事だけでなく、一日数回行っている。 毎月体重測定を行い体重の増減を把握、食事摂取量が少ない方には高カロリーゼリーや本人様が好まれる物を補食で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の状態に合わせて、歯磨き、うがい、義歯洗浄等の口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持と誤嚥性肺炎の防止に努めている。義歯は週に2回ボリドントで洗浄消毒を行っている。 必要時は家族様と相談の上、歯科訪問診療を受けていただき、現在3名の方が週2回の口腔ケアを受けておられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に排尿、排便状況を記入し、排泄意のない方についても排泄のパターンやリズムを把握するようにしている。職員間でどの時間帯に誘導するほうがよいのか検討し、声を掛け合っている。 できるだけトイレでの排泄を大切に、介助歩行や車いすにてトイレ誘導している。一人一人の状態に応じて紙パンツ、パット等を使用し、排泄動作のできる部分は自身で行っていたり、できない部分を介助するようにしている。 排泄の訴えのない方も、本人様の言動や様子から推察しトイレ誘導や対応を心掛けている。	排泄記録表や細かい観察などから、一人ひとりの排泄パターンや習慣が把握されており、昼夜とも利用者全員がトイレでの排泄支援を行っている。介助が必要な方でも職員二人で傾合いを見計らってトイレ誘導し、自立を意識した支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表により一人一人の排便リズムを把握するようにしている。野菜を多く取り入れた献立や乳製品の提供、水分補給や体操等により便秘の予防に努めているが、必要時は主治医に相談し下剤等を調整、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の心身の状態に合わせて、週3~4回入浴を実施している。日中は基本的にいつでも入浴できるが、体調の変化を考慮し午前中に実施している。入浴拒否のある方には言葉かけや対応を工夫し、無理強いせず入浴日を変更するなど臨機応変に対応している。時折入浴剤を使い、利用者様が入浴を楽しめるように工夫を行っている。	毎日、お湯の用意はできており、最低でも週に3回の入浴で、毎日の入浴を希望する方や皮膚の状態に応じてそれに応えている。入浴を嫌がる方には、無理強いせず、利用者の気持ちに合わせて声掛けをしながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動への参加を促し生活リズムを整えるように支援しているが、一人一人の心身の状態やペースに合わせて、いつでも居室やリビングのソファで午睡や休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにより全職員が入居者様の薬の内容を把握できるようにしている。服薬時は状態に合わせて見守りや介助を行い、飲み込みまで確認している。状態変化に留意し、定例のカンファレンスで検討。安定剤等は、常時の使用は避け、除去できる時には除去、中止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人様、家族様からの聞き取りにより、本人様が好きな事、楽しみ、嗜好品等を把握し、日々の生活に取り入れている。掃除、洗濯物たたみ、調理の手伝い、後片付け等、できることにはできるだけ参加していただき、役割や喜びを持って過ごせるように支援をしている。また、毎月行事を計画しており、利用者様が楽しめるような活動をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望が多い方には職員が付き添って散歩をしたり、ドライブなど行っている。希望のない方も、月に数回は気分転換にドライブやおやつを食べに行くなど行っている。	年間計画が作成され、家族の協力を得て遠出の外出支援が行われ利用者の楽しみとなっていたが、コロナ禍で計画通りの実現はできていない。天候に合わせてホーム周辺を散歩したり、ドライブで近くの公園に花見に行き、外出時に撮った利用者の笑顔ある写真が家族との面会場所に飾られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様や家族様が希望される方は、財布をお預かりし、必要物品などがある時に職員が付き添い、本人様と一緒に買いに行くこともある。また、行事に現金を使用し、本人に支払いをしていただく取り組みもできている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方にはいつでもできるようにしている。電話の場所もリビングからやや離れた場所に設置し、会話の内容が他の方に聞こえないように配慮している。遠方の家族様から手紙や贈り物が届いた時などは、返事の手紙を書くなどの支援も行っている。毎年年賀状を作成し、書くことができる利用者には書いてもらい書けない方の分は代筆して出すなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下、壁面など、毎月季節感や生活感を感じられるような飾り付けを行っている。行事や家族様と一緒に撮影した写真も多く掲示し、居心地よく安心して過ごせるように工夫している。台所、浴室、トイレ等は衛生面や安全面に留意している。 新型コロナ感染防止のため、面会も少なかったこともあり、利用者様が安心して過ごしていただけるように家族様との写真をできるだけ多く居室や壁面に飾るようにしている。	自然の光が差し込み、リビングは明るく、ほとんどの利用者がここで過ごす時間が多い。テーブルにはコロナウイルス感染防止対策として、アクリル板が設置され消毒も行われ万全な感染対策がとられている。壁面や天井などを利用し、行事の時に撮った写真が数多く飾られている。また天井には大きいこいのぼりが飾られ季節感あふれるホールとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の途中にある置の間で掲示物を見たり、外を眺めたりと自由に過ごしていただけるようにしている。リビングのソファや、個人の居室で気の合う利用者同士で会話を楽しまれたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンス等を持ち込まれたり、家族と一緒に写真、自分が作った作品を飾られたりしている。 新型コロナ感染防止のため、家族様と相談の上、自室の荷物を最小限にさせていただき、いつでも掃除や消毒等ができるようにしている。また、身体状況により、安全面も考慮し介護用ベッドをレンタルしていただいている方もおられる。	居室は利用者の状態に合わせてベッドが準備されている。定期的に寝具交換も行われ清潔な環境が整っている。馴染みの家具や衣類、手作りの飾りなどで、利用者が落ち着き安心して過ごせる場所となっている。また職員の心配りで、家族の面会時には利用者との写真を撮り笑顔あふれる写真が貼られている。コロナ禍で室内の掃除や消毒も職員で行い、万全な感染対策がなされている	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室やトイレの場所が分からなくなる方がおられるので、居室の入口に名前を表示したり、トイレの表示を見やすくするなどの工夫をしている。廊下や利用者様が歩かれる場所に障害物がないか確認するようにしている。歩行能力の維持を目的に手引き歩行や手すりを捕まえて移動するなどしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない